総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会議事録（第 24 期・第 2 回）

1.　日 時 平成 30 年 12 月 15 日（木）12:00～13:00

2.　場 所 日本学術会議５階　５－Ｃ（１）会議室

3.　出席者（敬称略・五十音順）：大倉・行場・小山田・下條・田中覚・藤代、欠席者（敬称略・五十音順）：越塚・高橋・明和・萩原

4.　経過

(ア) 資料 1 に基づき、文化・心理・こころの可視化に関する活動について説明された。主な意見については、以下の通りである。

① 表情の可視化として、顔型グラフがある。これは、12 項目の認知関係データから重回帰分析を使って表情を構成するものである（行場先生）

② 萩原先生の研究成果も表情可視化に関連する　（大倉先生）

(イ) 資料 2 に基づき、可視化における画期的な指導原理追求に関する活動について報告された。主な意見については、以下の通りである。

① 科学者、技術者にとっての可視化の重要性だけでなく一般市民向けの観点が重要、また、日本発も魅力的であるが、少し閉鎖的な印象がある（大倉先生）

(ウ) 今後の公開シンポジウム企画について、時間は藤代先生の主宰する小委員会がお世話役となり、来年夏頃開催に向けた企画を進めることとなった。

(エ) 資料 5 に基づき、マスタープラン 2020 策定においては、これまでの経験（資料 3, 4）を活かし、大規模研究計画をまとめたいと考えるが、最終的には、1 月頃までに分科会としての向き合い方を決める。大規模ドローンを使ったデータ取得拠点の形成も候補のひとつである。

(オ) 資料 6 に基づき、学術の動向特集 2 において「科学的知見の創出に資する可視化：日本発の可視化研究ブレイクスルーに向けて（仮題）」というタイトルで企画案を作成する予定であることが説明された。公開シンポジウムにおける話題提供を文書化してもらい、全体を俯瞰する総括に関する文を追加する方針が確認された。

(カ) 次回分科会も、公開シンポジウム日程にあわせて開催することとした。

以上

配布資料

資料１：小委員会報告（田中委員）
資料２：小委員会報告（藤代委員）
資料３：マスタープラン 2014 提出版（小山田委員）
資料４：マスタープラン 2017 提出版（小山田委員）
資料５：マスタープラン 2020 策定方針（小山田委員）
資料６：学術の動向　特集企画案（小山田委員）
資料７：日本学術会議提言可視化（小山田委員）